

IV 事業概要

1 学芸事業

【2 調査・研究, 収集・収蔵・保管, 科学相談等】

(1) 調査・研究活動

① 東日本大震災自然環境調査事業

■ 自然豊かな蒲生干潟継続観察プロジェクト事業

東日本大震災の津波被害で大きくその環境が変わってしまった蒲生干潟について月に 1~2 回の間隔で、継続観察事業を行った。その成果を速報として広報した。令和元年度は 185 号から 205 号まで発行した。

<蒲生調査レポート 速報版の号数とタイトル；令和元年度発行分>

号数 発行日 速報版 タイトル

第 185 号	2019. 3. 23	イシガレイ稚魚の接岸
第 186 号	2019. 4. 20	堤防工事の進捗
第 187 号	2019. 5. 10	右岸では見つからない稚魚
第 188 号	2019. 6. 22	繁殖期を迎えたカニ類
第 189 号	2019. 7. 14	見られないイシガレイ
第 190 号	2019. 8. 18	多くのガザミの稚ガニ
第 191 号	2019. 9. 15	ヤマトオサガニの生息場所
第 192 号	2019. 10. 20	台風による泥の堆積
第 193 号	2019. 11. 9	冬越しに備える生物
第 194 号	2019. 12. 4	蒲生干潟の地形調査⑩
第 195 号	2019. 12. 5	蒲生干潟の地形調査⑪
第 196 号	2019. 12. 6	蒲生干潟の地形調査⑫
第 197 号	2019. 12. 6	蒲生干潟の地形調査⑬
第 198 号	2019. 12. 6	蒲生干潟の地形調査⑭
第 199 号	2019. 12. 14	堤防工事の進捗
第 200 号	2019. 12. 26	蒲生干潟の地形調査⑮
第 201 号	2020. 1. 18	蒲生干潟周辺の塩分濃度⑭
第 202 号	2020. 1. 18	蒲生干潟の地形調査⑯
第 203 号	2020. 1. 19	現在の通水の状況
第 204 号	2020. 2. 18	蒲生干潟周辺の塩分濃度⑮
第 205 号	2020. 2. 18	蒲生干潟の地形調査⑰
第 206 号	2020. 2. 16	河口にいるのはイシガレイのみ
第 207 号	2020. 3. 12	蒲生干潟の塩分濃度⑯
第 208 号	2020. 3. 12	蒲生干潟の地形調査⑱
第 209 号	2020. 3. 15	成長したイシガレイ



【蒲生調査レポート速報版】



【蒲生調査の様子】

＜科学館研究報告＞

以下の論文が仙台市科学館研究報告第 29 号に掲載された。

2011年東北地方太平洋沖地震津波後の蒲生干潟の地形変遷その⑨

青沼一岳・小山康宏

要約；2011年東北地方太平洋沖地震に伴って発生した津波によって、七北田川河口に広がる蒲生干潟はその姿を大きく変えた。震災後3年間で大きく変動したのち安定した干潟内部の汀線は、その後もほぼ安定な状態を保っていた。今回の調査では、導流提通水部や河口にかけての防潮堤の工事が進み、河口付近では左岸・右岸とも堆積と侵食を繰り返し、砂州の形状が変化していることが明らかになった。

蒲生干潟周辺の塩分濃度（2019）

小山康宏・青沼一岳

要約；蒲生干潟の潟湖内及び七北田川河口（6地点）の表層水の塩分濃度を調査した。調査の結果、塩分濃度について、蒲生干潟内の塩分濃度は一様でないこと、同一の採水点でも年間を通して一定の塩分濃度を示さないこと、8月と10月の調査において潟湖全体の塩分濃度が低い値であったこと、10～12月の潟湖北部の採水点（St.3）の塩分濃度が、他の採水点に比べて低い値のままであったことが示された。

2011年東北地方太平洋沖地震後の蒲生干潟におけるイシガレイの成長（2019年度調査報告）

佐藤賢治

要約；蒲生干潟は2011年東北地方太平洋沖地震により大きな被害を受けた。地形も大きく変わり、そこに住む生物は多大なる影響を受けている。これまでの調査で、潟湖内で採集される個体は減少しているが、七北田川河口域では順調な成長を見せていた。しかし、導流堤工事が進み河口の環境は短時間で大きく変化している。このような視点も含め、2011年以降のイシガレイの成長について調査・考察を行った。2019年度は4月20日を最後にイシガレイを全く採集することはできず、堤防工事進捗の影響が考えられる。

2011年東北地方太平洋沖地震後の蒲生干潟におけるカニ類を中心とした生物の様子（2019年度調査報告）

佐藤賢治

要約；仙台市宮城野区の七北田川河口にある蒲生干潟は2011年東北地方太平洋沖地震により大きな被害を受けた。本レポートは2011年度から継続して調査した、カニ類を中心とした生物の様子をまとめたものである。2019年度は導流堤工事が進捗しており、工事終了後の安定した環境での生物の広がり期待される。